

生涯学習情報「らいふまっぷ」別冊
家庭教育・子育て支援情報

ほっとメール

～家庭教育の悩み・疑問に答えます～

中標津町青少年教育指導センター
(専門相談員)

中標津町教育委員会

目 次

1 . 1年間の行事等と家庭教育

1 - 1	夢がいっぱい・入学式(4月)	・・・	3
1 - 2	中学生の修学旅行(5～6月)	・・・	3
1 - 3	小学生の運動会(6月)	・・・	4
1 - 4	夏休み(7月)	・・・	5
1 - 5	家庭・地域での高齢者の役割(9月)	・・・	6
1 - 6	発表会・学芸会・文化祭(10～11月)	・・・	7
1 - 7	小・中・高校の冬休み(12月)	・・・	9
1 - 8	お年玉と金銭教育(1月)	・・・	10
1 - 9	入園・入学を迎える前に(2月)	・・・	11
1 - 10	希望に燃える旅立ち・卒業式(3月)	・・・	13

2 . 中学生、高校生の家庭教育

2 - 1	中学生の父母の皆さんへ	・・・	14
2 - 2	高校生の父母の皆さんへ	・・・	16

生涯学習情報「らいふまっぷ」(平成16年6月号～平成17年9月号)に14回掲載したものに加筆訂正いたしました。

1 - 1 夢がいっぱい・入学式（4月）

4月は入学式の季節です。初めて我が子の小学校入学を迎えたお父さん・お母さんは、内心、子ども以上に不安かも知れません。

今月はそんなお父さん・お母さんにエールを送ります。

お子様のご入学おめでとうございます。我が子の頼もしい晴れ姿はいかがでしたか。反面、初めてのお子さんのことですから不安なこともあるのではないのでしょうか。

例えば、PTA活動はどうするのだろうかとか、自分自身が担任の先生や他の父母の皆さん方とうまく交流できるのだろうかとか、お子さんの学習はどうしたらいいのかとか、塾や習い事はどうしたらよいのだろうか.....。

まず、PTA活動ですが、学校の規模により多少の違いはありますが、要は、この活動は子育てや教育のために様々な活動をする事と同じです。会員相互が、我が子を育てながら自分自身も育ち合う輪を作っていくことを頭において、積極的に関わりを持ちたいものです。初めて経験することですから怖いことはないのです。

そういう活動を少しずつ経験していくうちに、担任の先生はもちろん、他の父母の皆さん方ともうまく輪を作れるようになっていきます。その中で我が子の学習状態を見極め、必要なら担任や先輩父母の子育て経験談を参考にされ、判断されたいかががでしょうか。

不安や心配ごとを抱えるとお子さんは敏感に反応します。一人で悩まず、些細なことでも担任の先生に相談しましょう。スッキリ気分でお子さんに対応することが大切なのです。

1 - 2 中学生の修学旅行（5～6月）

新学期が始まって1ヶ月、校舎内外に希望に満ちた元気あふれる大きな声が響き合っています。特に3年生は修学旅行の諸準備に心を躍らせていることでしょう。

修学旅行の意義、学習の概要、そして親として家庭で配慮したいことなどを記してみます。

多様な知識・理解を見聞し広める～文化、経済、政治など

教科書では学び切れない生きた教材に直面し、自ら体験し、多様な知識を習得し、理解を深める機会に意義があります。

思いっきり楽しい体験や将来に向けエネルギーの蓄電も

短期間ですが集団生活を通し、集団のルールや自分自身の役割を体験的に学びます。また、社会の規範も自然に身につけていきます。

さらに、この期間を通し、友だち同士や教師との交流を深め、自分自身の将来へのエネルギーも蓄積されるのです。

さて、こんなことは親はどうするの？

携帯電話はたいへん便利です。でも、我が子にどう対応したら？ 頭の痛い限りです。一時の誤使用で大きく発展したらと……思いは同じです。

また、お小遣いは？ 「我が子だけはいいだろう」はどうでしょうか。

我が子の個人的な事情は隠さず相談しましょう。約束遵守です。この修学旅行は、生涯、財産として心に残り続けるのです。

1 - 3 小学生の運動会（6月）

みどり濃い6月。運動会シーズンの到来です。今月は「運動会」に関する内容で、小学生をもつ父母を対象に記してみます。

運動会前～子どもの頑張り目標は！

「今日は走ったよ」「お遊戯の練習をしているよ」「明日は紅白の選手を決めるんだって」など、毎日子どもから情報を得られることでしょうか。そんな時の子どもの目は輝いていますか？

生き生きと輝いていれば、自分の目標を持ち、練習に励んでいる証拠です。どうも意欲を感じとれない、運動会は嫌い、という消極的な様子の方は、自分の目標を持てるよう親子で話し合ってみましょう。

観覧（応援）～集団の中の我が子の様子は！

集団（全校・学年など）の中で我が子はどんな様子でしょうか。子どもの成長を確認する目安になります。よその子との比較ではなく、我が子自身の目標の頑張りや、集団の中の動きで観ていきましょう。それが終了後の子どもへの率直な感想、今後の励ましの言葉かけへとつながっていくのです。

終了後～このエネルギーを新たな目標に生かして！

戸外の一日の頑張りは想像以上に体力を消耗しています。子どもへの感想や励ましの言葉は、良かったことを率直に自信を持って言いましょう。そして、明日から

の新たな目標づくりや、その達成のために生かしていけたらいいですね。

また、特に印象的な事柄があれば、それを担任の先生にも伝えましょう。小さなことでも大きなヒントになることもあるのです。

喫煙～学校の約束(きまり)は遵守です。子どもたちが見ていますよ！

学校より、当日の「約束(きまり)」「お願い」などで周知されているとおりです。喫煙をしない大人の本当の頑張り子どもたちに見せてあげたいですね。

1 - 4 夏休み(7月)

もうすぐ子どもたちが楽しみにしている夏休みです。夏は服装も軽くなり、気持ちも開放的になります。子どもたちが規則正しい生活リズムを保ち、有意義な毎日でありたいと願います。

今月は、我が子にどう夏休みを過ごさせるか、ポイントを記してみました。参考になれば幸いです。

小学生(低学年) 生活リズムをくずさない毎日を！

夏休みは町内会で朝のラジオ体操が行われます。眠たい眼をこすりながら会場に出向く子には生活の乱れはありません。気合いを入れて支えてあげましょう。昔から早寝早起きは規則正しい生活の基本と言われています。食事もしっかり摂らせ、体調不良(夏バテ)もなくしたいですね。

家族みんなで約束を持ち、子どもも家族の一員の役割を果たせるよう話し合いたいです。夕食時にはその日の役割分担のことや今日の出来事などを話題にし、認めや褒め、励ましを。それが明日へのめあて、やる気を持続させるのです。

小学生(高学年) 活動力旺盛、目的意識をしっかり持たせて！

親は「家にいてほしい」と思っても、じっとできない年ごろです。夏休みは家事手伝いで相応の役割を与え、意欲的に挑戦させる機会にしたいです。

また、時間をかけて自由研究をしたり、グループで何かをまとめたりすることも可能です。特に、勉強はやる気を高め続けさせるため、ほどよく声かけや認め励ましを。充実感・満足感の残る夏休みになるよう期待しながら……。

“休み中に何かに挑戦したい”という意欲や行動力、冒険心の発揮できる機会があればいいですね。町内会行事の参加も積極的に。

中学生 周りの誘惑に負けず、集中できることに熱中も！

長い休み中に生活リズムを乱すことは、後日子どもが一番困ります。放任は避けましょう。生活状況の異変に気づいたら、きちんと取り上げ指摘しましょう。例えば、携帯電話・インターネット・交友関係・外出などです。特に、外泊は厳禁と、はっきり言い伝えましょう。

せっかくの長い休みです。子どもが何か夢中になれること、部活動・読書・ボランティア活動・勉学・調査研究・運動……周囲に目を奪われずに取り組める時間を設けられるといいですね。時にはちょっと耳打ちも。

高校生 意義ある“一日”のあり方を自覚し、地道に実行を！

“青春”ド真中。この夏休みをどう過ごそうと計画しているでしょうか。意義ある“一日”にするため、親のさらり一言アドバイスは効果的です。さりげない、ささいな一言で心を揺さぶられるのです。

アルバイトをしたい、遊びたい、メールしたいなど、やりたいことが山積している年代ですが、一日の中で短時間でも自分の時間を確保し、自省させることも大切です。

また、自分の将来に向け、着々と準備する機会です。親はそっと支えてあげましょう。

その他

- ・学校からの配布物（おたより）の内容は、親子一緒に目をとおり、大事なことを話し合ひましょう。
- ・「眠らない街」から、子どもの生活面・行動面への配慮も必要になってきそうです。

1 - 5 家庭・地域での高齢者の役割（9月）

「敬老の日」が近づいてきました。今月は、各方面でご活躍中の高齢者の皆さまに、人生の豊かな経験に基づいた貴重な一端をお示しいただき、地域（近所）の子どもたちの健全育成に一役をお願いしたく記してみました。

地域の幼児・小学生に ~やさしく、きびしく~

お孫さんのいらっしゃる方には、お孫さんに対する思いで地域の子どもたちに目

を向けていただければ幸いです。

この時期の子どもたちは何事にも好奇心が著しく旺盛です。ともすると無秩序な行いを平然とやり過ごす場合が多々あります。

こんな時には遠慮なさらず、よその子どもであれ我が家の孫であれ、やさしく諭され、時には厳しく接していただきたいと存じます。

中学生・高校生に ~人生の鏡を映して~

“今の若い者は...”と嘆かれる大人の多い社会です。

中学生・高校生は青春を謳歌したい時期の子どもたちです。

でも、経験を踏まれた筋の通った話は素直に受け入れてくれます。子どもたちの良さを認め、褒め、善悪の判断を毅然と導いていただければ幸いです。ご自身の人生の数多き経験をお伝えください。子どもたちの心にジンジンしめることでしょう。

人生の鏡に鮮明に映された姿を、どうかご家庭でも地域でも、機会を求められた際は子どもたちと接して披露していただければと存じます。また、地域には「怖いおじいちゃん・おばあちゃん」の存在が、時には必要です。このことも合わせてよろしく願いいたします。

1 - 6 発表会・学芸会・文化祭（10～11月）

発表会・学芸会・文化祭のシーズンを迎えます。子どもたちの総合的な表現（創作）活動の成果を觀賞する機会です。父母も、不安と期待が交錯する複雑な心境で当日を迎えることでしょう。この行事に対する要点を記してみました。

幼稚園・小学生低学年

（前日）今までの子どもの練習を踏まえ、父母や祖父母が楽しみにしていること、元気いっぱいできるよう応援することなど励ましの言葉をかけ、持ち物を点検し少し早めに休ませましょう。

（当日）この時期は、練習十分でも会場の雰囲気などで戸惑う場面もあります。でも子どもは一生懸命です。大きな拍手でその努力に応えてあげましょう。

（終了後）1日の頑張りを具体的にひと言褒めてあげます。次への意欲とエネルギーになるでしょう。

小学生高学年

(前日) 子どもの練習への取り組みを通し「本番では大きな声で歌ったり、セリフを言えるようにね。期待しているよ」など軽く励ましてはいかがでしょうか。

(当日) 高学年になると舞台上ばかりではなく、会場のあちこちで分担された役割の中で活躍しています。周りの子どもたちの動きにも目を向け、全体的な活動の様子もご覧ください。舞台でも主役・脇役・裏方の役割を認め、平等に評価しましょう。

(終了後) この貴重な体験をこれからの学習に生かせるようアドバイスしてあげましょう。学級・学年全体にも感想を寄せてあげることも励みになります。

中学生

(前日) 親の来場を敬遠する様子を見せるでしょうが、取り組んできた努力を見落とさず、存分に力を発揮して欲しい旨を伝えましょう。子どもも内心は皆に見て欲しいと思っているはずです。

(当日) 我が子を含め学年全体の表現の態度や各分担の活動を通して率直に評価しましょう。全体の中で子どもの動きはどうかを見てあげ、そのことを褒めてあげましょう。

(終了後) 褒めても子どもはテレがあり素直に受入れないこともありますが、嬉しい気持ちや達成感があるものです。些細なことでも一生懸命に取り組んだことが大きな力になっていることを認めてあげましょう。

その他

- ・学校から配布される「案内状(プログラム)」に記載されている「お願い」「ご協力」を、きちんと守ることも大切なマナーです。子どもは大人をよく見ているのです。
- ・当日は校(園)内で作品展示も公開されていると思います。じっくり鑑賞できれば、いっそう子どもたちの生活や学習の様子を知る機会になります。

1 - 7 小・中・高校の冬休み（12月）

冬休みは、子どもにとって最高に魅力のある休みです。寒い日は家で過ごせて、室内ゲームなどを存分にできる（寝坊もできる）からです。また、ウインタースポーツも思い切り楽しめる時期です。その反面、生活のリズムを崩すおそれも多々あります。

この時期は年末年始とも重なり、日本の古くからの伝統、慣習などを、ぜひ親子で一緒に体験したい（させたい）ものです。

冬休み中の家庭内での過ごし方、保護者として子どもに配慮したいことを記してみました。

小学生低学年 ～生活リズムを崩さず生活を～

休みの直前または始まりに、親子で大まかな計画を立てたり、1日のすることをいくつか決めておきましょう。生活リズムを崩さないよう起床や就寝、健康や安全などを含め、学校からの資料を参考に話し合い、何をするかいくつか約束します。そして、その評価（ほめる、励ます）をすると次の意欲の高揚やさらなる持続につながります。

冬休み終了間際になって親が宿題を手伝うようなことをしないよう、やることは早めにすませる習慣を学ばせる機会にしたいですね。

小学生高学年 ～北風に負けず、何かに挑戦し、楽しみを～

何事にも積極的に挑戦してみたい年齢です。北風に顔を背けぬ気力と体力でウインタースポーツに挑戦できればいいですね。テーマを決め、それについて時間をかけて図書館などでゆっくり調べたり、専門家や古老を訪ねたり、見学したり、体験したり、実験したり……楽しい冬休みになりますね。

また、交友関係も広範囲になります。親に隠さない関係であるよう、ときどき家庭の話題にしてはどうでしょう。

中学生 ～生活にケジメを意識し、夢中になれるものを～

中学生は親の意図したようには対応しません。要はケジメをいかに意識させ、長い休みを過ごさせるかだと思います。特に生活リズムを崩さぬような気配りを欠かさぬようにしたいものです。子どもは誰でも自分の好きなことに夢中になります。親子でよく話し合い、何か一つ全力で取り組めることに挑戦させてみてはどうでしょうか。受験生には健康面（栄養、睡眠、休養）に配慮し、充実した毎日であるよう温かい支援もいいですね。

高校生 ~最低限の制約と温かい支援を~

「もう“おとな”なんだから自分のことは自分で考えてしなさい」と、親は自立を期待します。でも、我が子に親としてこれだけは守ってほしい最低限の制約は必要です。平素できている場合でも長期休業ともなれば気の緩みも出ます。特に気をつけたいことは、外泊、門限、アルバイトによる交友関係です。携帯電話の所持率が高い高校生には親の気づかぬ世界もあります。

その他

- ・学校からの「おたより」「連絡」「学校のきまり」などは、必ず目を通しましょう。そして大事な事柄は親子で確認しましょう。
- ・学年を問わず、親子でゆっくり会話する時間をつくりましょう。

1 - 8 お年玉と金銭教育（1月）

お正月に頂戴する「お年玉」は、どの子にとっても何よりうれしいものです。子どもたちは正月前から“とらぬ狸の皮算用”や、親や親類の出方を目論見、前年以上の予想額の期待で胸を大きくふくらませることでしょう。

この時期、日頃手にしない「大金」を得た子どもたちに、保護者として配慮したいことを記してみました。

小学生低学年 ~お金の値打ちを理解する機会に~

普段から子どもの要求に合わせてお金を与えることは避けましょう。お年玉も、だんだん高額を要求（期待）するようになり、お年玉の楽しみを失うこととなります。低学年のうちはお金の値打ちを理解する機会とし、親子が約束して年々少しずつ増やしていくのはどうでしょう。今は、お年玉の総金額を友だちと競うようなこともあるようです。

小学生高学年 ~自分の欲しい物を手に入れる機会に~

日頃より自分が欲しいと決めていた物を、お年玉と貯金で購入するときのうれしさは格別の感情がわいてくるのです。ようやく自分の手にした物はいつまでも大切に
する気持ち
も大きいのです。しかも知らぬ間にお金のありがたさを身に付けていくのです。お金
はい
つでも親に要求したら“もらえるもの”という考えは正していくのが良いでしょう。

中学生 ~遊びに費やす金銭感覚は要注意~

いま、青少年をターゲットにした商品は携帯電話をはじめ電化製品、装飾品、ジャケット類、CD、化粧品.....たくさんあります。中学生ともなれば当然関心を持ち始めている時期です。

日頃のお小遣いを元手にお年玉を合わせ、あれもこれもと目ぼしい品をどんどん購入したくなります。つい高額な物に手を出し、後悔する場面も起こりそうです。親は子どもが何を求めているのか、情報把握が大切です。時には適切なアドバイスと有効な使い方に配慮を。

高校生 ~自分の大きな目標へ向かうために使う気持ちを~

高校生の中にはアルバイトで自分の携帯電話使用料を払っているとの声をよく耳にします。自分なりに計画を立て、労働して得た賃金を上手に使っていると思います。

しかし、そうでない人たちも大勢いるという情報があります。高校生ですから、自分の大きな目標のために価値ある使い方をさせたいですね。衝動買いの金銭感覚は改めるようにしたいものです。

参考 「お年玉」の目安

小学生低学年 = 1000円

小学生高学年 = 2000円~3000円

中学生 = 3000円~5000円

高校生 = 5000円

1 - 9 入園・入学を迎える前に(2月)

この春、入園・入学を迎える家庭はそろそろ準備に取り掛かる時期になりました。今月は入園・入学に関わる“こころ”の準備について記してみました。

幼稚園・保育園への入園 ~1日の生活リズムを少しずつ、しっかり整えて!~

子どもは入園すると、園の「きまり」に沿った1日の生活を送ることになります。ですから、そのつもりで親も対応していきましょう。

そのためには、1日の生活リズムを徐々に規則正しくできるようにしていきたいものです。起床、朝食、夕食、就寝など一定の生活を送れるようにしましょう。入園後の生活に大きな影響をもたらします。

また、子ども自身が自分の身の回りのことは自分でできるようにさせておくこと

も大切です。例えば、簡単な衣服の着脱、整頓や使った物の後始末がしっかりできることなどです。

小学校への入学

～「はやくはやく！」と急がせるより、しっかりさせる余裕を！～

小学校入学は、幼稚園・保育園の延長ではありません。子どもにとって人間関係（社会性）を含めた生涯学習の基礎・基本を計画的に学ぶ大切な機会の始まりです。

さて、親にとっては子どもに対する大きな期待を抱き入学する日を待ってきたことと思います。そこで、これだけはぜひ配慮し、少しずつ実行し慣らしていきましょう。早く早くと急かせずに余裕をもちながら…。

早寝、早起きができる

身支度ができる

食事の時間が守れる（決められた時間）

通学路がわかる

トイレ（手洗い、水流し）ができる

箸を正しく持てる などです。

中学校への入学 ～学習にも運動にも目的意識を徐々に高めるアドバイスを！～

小学校卒業時には、当然中学校生活に関する指導を受けます。しかし、子どもは理解できても具体的な内容までイメージを膨らませることはなかなかできません。この時期、何かの機会を見つけては徐々にアドバイスをして欲しいです。親子の会話に本人の思いを具体化できるきっかけがあるようです。

今から最低限取り組んで欲しいことは、

朝食は必ず摂る

学習用具は忘れない（学校に置いておかない）

学習する習慣を身につける などです。

その他

- ・今後、小学校でも中学校でも「1日体験入学」「入学説明会」などがあります。日頃から疑問点をメモしておき、学校側の考えを聞く機会にしましょう。
- ・小学校、中学校など当該学校の「きまり」に目をおし、子どもへ程よく効果的なアドバイスをしましょう。
- ・特に、初めて入園、入学を迎える家庭は期待と不安をお持ちでしょうが、過剰な不安は禁物です。その時期になれば直接当該学校へ相談することもできます。

1 - 10 希望に燃える旅立ち・卒業式（3月）

3月は卒業式の季節です。子どもの卒業を迎えた父母から子どもへの「言葉かけ」の要点を記してみました。

小学校卒業 ~一つの区切り。でも新たな出発に応援を！~

背中一杯のランドセルを背負い保護者に手を引かれ、小さな不安と大きな期待を抱いて小学校の校門をくぐってから丸6年。子どもも親もそれぞれ多くの思い出を胸に、晴れて小学校の全課程を修了することになります。今、一つの区切りを終え、次の新たな出発へ向けいろいろ準備をする時期でもあります。

親から「立派な態度だったよ。よく頑張ったね。中学校でもさらに一生懸命になれるように応援するからね」と心からひと声かけてあげたいですね。子どもの決意が変わりますよ。当日の夕食は家族でお祝いを！

中学校卒業 ~義務教育の修了。さらなる成長に支援を！~

この3年間は子どもも親も「あっ」という間ではなかったでしょうか。日々変化する自分自身の心身のありように驚いたり、悩んだり…。でも間もなく義務教育が終わります。ここまで、よく頑張ってきたことに心から祝意を表してあげましょう。

たぶんこの3年間で、子どもにはやり残したことが多々あると思います。それらを悔いのないよう修めるために進学の道を志す子どもがいたり、また実社会の大海に出て大波にもまれながら成長しようとする子どももいることでしょう。親は子どもにさらなる温かい支援を。限りない愛情を注ぎつつ…。

高校卒業 ~我が人生を歩み始めるバネ。さり気ない励ましと末長い見守りを~

子どもに率直に「卒業おめでとう」と掛け値なしに声に出して祝意を表したいものです。親は我が子の卒業に当たり、ホッとされていることでしょう。子ども自身も内心では嬉しさと感謝の意を胸に、照れた態度を示すこともあるでしょう。共に喜びを分かち合いたいです。

でも、子ども自身の努力はあってですが、両親や教師たちに対する感謝の念を感じる心もそれとなく諭し、これを自分の礎にするようアドバイスしたいです。

子どもはこの先いろいろあることでしょうが、社会でも大学でも我が人生を歩み始めるに当たり、今後も思いやりを込め、さり気ない励ましと温かい見守りをしていくよ、と伝えましょう。

2 - 1 中学生の父母の皆さんへ

問 中学生になってから、親は子どもの言動や態度に戸惑ったり、寂しい思いをしたりすることが多くなりました。子どもの変化に、親はどのように対応したら良いでしょうか？

答 中学生は「思春期の真っ只中である」と、まず親自身がしっかり認識すべきです。いつまでも自分を「子ども扱い」にする親の態度に反発心を抱いた生活をしているからです。また、毎日揺れ動く不安定な精神状態の時期です。ですから、我が子もそういう年ごろになった喜びや期待などを率直に話しましょう。そして、日頃から子どもの気持ちを察し、共感的に理解するよう考え、子どもに接していくのが良いでしょう。親は、いざという時には毅然とした態度で対応して欲しいものです。叱るも褒めるも「ここ一番」を見極めてです。

問 好奇心や社会への反発からか、ささいなきっかけで非行に走ることが多いようでは心配です。タバコやお酒への注意や、見つけた時の対応は？

答 「背伸びするガキ」とか「大人の入り口の子ども」とか言われる中学生。自己顕示欲が旺盛のため、集団生活において、特に仲間同士で自己アピールするための行為の一例が喫煙や飲酒です。本人は内心では相当無理をしながら強がっているのです。「おや、ヘンだな？ 怪しいな？」と感じた時は、間をおかず率直に話題にし確認し、タバコや酒の悪影響について毅然たる態度で言い聞かせる必要があります。間違っても自宅でも黙認する態度は避けるべきです。できれば日頃から子どもの小遣いにも目を向け点検するゆとりが欲しいです。この際他の親との連携も大事です。

問 親が留守の間に、家が子どもたちの「たまり場」になると聞きます。防ぐためにはどのような注意が必要でしょうか？

答 基本的には、普段から「親の留守中に他人を家に入れぬ」と約束し、必ず守らせることです。たとえ友だちから誘われてもこの約束ごとを守り、きっぱり拒否できる態度を育てておきたいものです。上手に対応できた場合には、心から褒めてあげることです。子どもは自信と喜びを感じるでしょう。また、家族が一丸となって家の中を整理整頓しておくことも一つの方法で、親の留守中にやむを得ず友だちを連れてきた場合に勝手がしづらくなるのでは。もちろん、子どもの交友関係を理解

しておくことも必要です。

問 中学生になると深刻な悩みを抱えても、なかなか親に相談してくれません。普段からのコミュニケーションが大事なことは分かりますが、いざ打ち明けられたり、偶然発覚した時、どのような態度で接したら良いのでしょうか？

答 中学生ともなれば知的発達著しく、論理的思考能力も急激に発達します。それでも日頃より親子の会話がある場合は気づきも早く順調にコミュニケーションを持続できると思われます。しかし、日頃親子間の会話が希薄であれば、子どもの深刻な悩みに気づかずに過ごしてしまう場合も当然あるでしょう。

突然相談された場合は気持ちが動転するものですが、慌てず、よく内容を聞き入れ、無理に結論を急がないように対応することが大切です。親も落ち着いて一緒になりじっくり考え、「お父(母)さんなら するかなあ」と方向性を伝え安心感を与えることはどうでしょう。

問 全然勉強をしません。高校入試が心配なのですが？

答 まず、親子が進路や将来についてよく話し合うことです。その後も一向に勉強しないのであれば、今、子どもを夢中にさせている何かがあるのでしょうか。部活動、友だち、趣味、IT……それを見極めましょう。部活動に夢中で一生懸命ならば、その後必ず学習に集中していくはずで。

また、進路に対する迷い、不安から勉強に集中できない場合も考えられます。そういう場合は学級担任に相談する必要もあります。

「勉強しなさい！」と一日に何度も言うより、「あなたは近い将来何をしたいか」と話していくと、子どもはそれに向かうために勉強の必要性を感じてくるのではないのでしょうか。

問 その他何かアドバイスを……

答 中学生の時期は子どもから大人へ脱皮を図るときで、身体に比べ心の成長は未熟で、不安定な行動を起こしがちです。自己顕示欲や好奇心が強く、依存的で、耐性や勤労意欲に欠け、ものを大切にしない場合もあります。

また、この時期は自分の将来や人生に関わる諸問題に対し関心が高まり、紆余曲折を経て成長していきます。

親は、「心と体」「思考と行動」がアンバランスな状態であること、子どもの

心は毎日ゆれ動いている（精神的に不安定な状況にある）ことを理解し、大人の発想ではなく、子どもの立場に立って対応することです。子どもの言葉に耳を傾け、共感的に理解し、共に悩みながら相談にのり、親（大人）として助言し支援していきたいものです。人生についても、自らの人格を通して語りかけ、子どもの心に深く浸透していくような言い方が大切になるでしょう。

2 - 2 高校生の父母の皆さんへ

問 高校生は親とのコミュニケーションが薄くなる年代とは思いますが、最近には家に居ても携帯電話のメールばかりしていたり、自分の部屋に閉じこもっていたりと、ますますコミュニケーションが不足になっています。どのように親子のコミュニケーションを図れば良いのでしょうか？

答 高校生ともなれば自分自身の言動に責任感を強く抱いたり、広い視野から思考したり判断したりできるようになります。また、社会で起きる多様な事象に関心も高くなります。当然、友人関係中心の生活になり、そのため親子間の会話が弾む機会は減少していきます。

日常生活において親から一方的に話を持ちかけても拒否されてしまうようです。いつも我が子に目を向けている親の姿勢を保持し、日常生活の中で些細なことでも認め、褒めることが大切です。また、本当に必要な場合はしっかり叱ることも大切です。ここから親子のコミュニケーションを図る突破口ができるのです。

問 進学にしても就職にしても、進路を決めるのは切実な問題です。親子が進路について話し合う上で、親はどのような態度・考えが必要でしょうか？

答 今、高校生自身、自分の将来について真剣に考えられない生徒がいる状況があると聞いています。将来の社会情勢や就労環境など不透明な部分も多々あり、保護者も子どもも迷うのは当然だと思います。

親子の話し合いの中で、親は子どものやりたいことは何かをよく聞いてあげ、その言い分を認める度量が必要だと思います。その際、あまりにも度を越した考え方には毅然と対応し適切にアドバイスしてあげることも大切です。

問 義務教育の頃と違って、高校生になると親同士の情報交換が不足になりがちです。どのようにしたら連携が図れるのでしょうか？

答 親自身に高校はもう難しくてという意識が潜在的にあるようです。

特別な事情がない限り学校へ出向く機会は少なくなっているようですが、PTA関係行事などに可能な限り参加し、学校や生徒などの情報や話題を適時把握し、近隣の親同士の話題とする努力が欲しいです。与えられる情報だけでなく積極的に情報を求め、クラス担任教師（学校）やPTA役員などとも連携することはどうでしょうか。

我が子に関することを話題提供のきっかけにし、徐々に輪を広めて行けたらと思います。今は、保護者自身の意識改革が求められているのです。

問 携帯電話はたいへん便利だと思いますが、高校生の場合、多額な料金支払いのためにアルバイトをする、常にメールをチェックし落ち着きがない、不審なメールに反応する心配などの問題があります。親としてどのような対応をすれば良いでしょうか？

答 電話使用料金支払いのためにアルバイトをするとは“本末転倒”と考えるのは古い人間でしょうか。今や携帯電話の機能等の技術革新はめざましく、子どもたちにとっては必需品です。高校生の9割以上は所有している現状のようです。

所有させる親の心配は当然です。ですから、所有させる際に親子できちんとルールを決め、約束を遵守させることが大切です。所有する目的は何か、料金の支払いはどうするかなど具体的に約束しましょう。

問 アルバイトについてどう考えたら良いでしょうか？

答 よく保護者から子どもが高校生になったら「バイトができるようになる」という言葉を耳にします。アルバイトの長所は社会性を育むことをはじめいろいろ利点があります。短所はアルバイトにかこつけて夜遊びに転じること、浪費など…。

アルバイトをしなければ学校に行けないという生徒がいる一方で、携帯電話のため、遊ぶためにアルバイトをさせる、したいという親や子どものいる現実もあります。

保護者は安易に結論を出さず、子どもの真意をとらえ、確認する必要があります。また、時には毅然とした指導も必要です。

問 その他何かアドバイスを……

☐ 生活態度は小学生時代に定着したことが基本になります。これを崩さず生活できれば楽しい学校生活を送ることができるのです。

具体的には、起床・就寝時刻、身辺自立（洗濯・掃除・弁当づくり）家族同士のあいさつなどです。

高校生の外泊についてですが、親は交流のためと安易に認めるようですが、絶対認めないのは個室のことです。最高の危険信号かも知れません。

生涯学習情報「らいふまっぷ」別冊

家庭教育・子育て支援情報

「ほっとメール ～家庭教育の悩み・疑問に答えます～」

平成18年4月発行

編集・発行 / 中標津町教育委員会（生涯学習課生涯学習指導班）

〒086-1197 中標津町丸山2丁目22番地

0153-73-3111（内線276）

FAX 0153-72-7757